



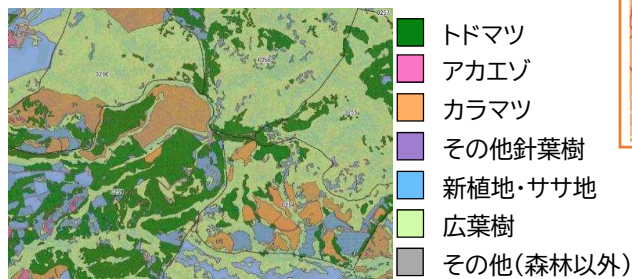
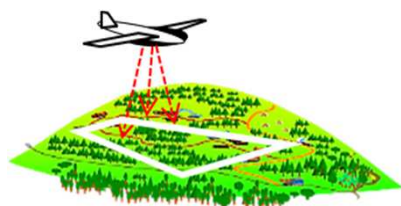
概要

○広葉樹資源の持続可能な利用に向けて、航空レーザや衛星写真等の活用による森林資源の効率的に把握する技術や、広葉樹伐採の選木方法等の開発に先導的に取り組めます。

広葉樹資源の把握・利用

STEP1 広範囲の資源把握

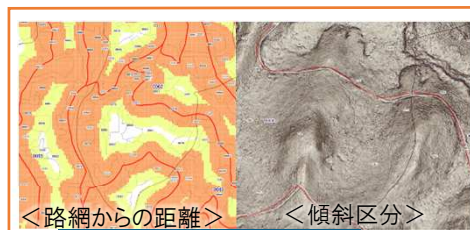
・航空レーザ計測データや衛星画像の解析による林相分類を行い、天然林の針葉樹、広葉樹の分布状況を把握



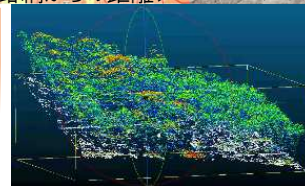
STEP2 施業候補地の設定

・広葉樹の林分を対象に樹冠高データを解析し、空間体積法による推定式よりha当たり蓄積を推定

・レーザデータから得られる傾斜情報のほか路網からの距離や施業対象の人工林施業区域等の情報も含めて施業候補エリアを設定



施業候補エリアを机上で設定



STEP3 広葉樹伐採の選木等

・施業候補エリアの現地踏査を実施

・樹種や径級樹冠構成等から、施業実施の可否を判断



施業候補エリアの現地踏査



令和6年度の取組

・本手法による蓄積推定の検証エリアを拡大し、精度の向上を図る

・整備を必要とする天然林の判断基準を策定する

・現地検討会や研修会を通じて職員の樹種判別や選木、地域ニーズの把握など技術向上に向けた取組を実施

課題

・蓄積推定式の精度が低いことから、精度向上が必要

・本手法を活用した天然林施業の実施に向けては、活用マニュアルの作成や職員の技術向上が必要